

ロータリー
変化をもたらす

帯広西ロータリークラブ

会報

第2223回例会

2018.4.19



■RI第2500地区テーマ■

今こそ行動を！
一クラブが元気になるために
地区が元気であるために
そして 私たちの未来のために



■クラブ・テーマ■

積極的に奉仕し、成長しよう

会長報告

石原英樹 会長

みなさんこんにちは
先日の上士幌RC、清水RC、帯広西RCの3クラブ合同例会にてバナーを交換してまいりました。



今週末に帯広にてPETS・地区協議会が行われます。いよいよ来年度に向けてのスタートとなります。各分科会、最後までしっかり勉強をして頂きたいと思っております。

さて、今月は「母子の健康月間」です。ロータリー活動の6つの重点分野の一つであります。年度の早い順から、9月「基本的教育と識字率向上」、10月「経済と地域社会の発展」、12月「疾病予防と治療」、2月「平和と紛争予防/紛争解決」、3月「水の衛生」、そして4月「母子の健康」月間です。

世界には病気、栄養失調、医療不備、不適切な衛生設備が原因で命を脅かされている、生きていくために大変苦勞をしている子供が多くいます。また大人、特に女性ではリプロダクティブ・ヘルス(性と生殖に関する健康)と言いますが、避妊を望んでも、安全で効果的な避妊法を利用できない。また妊娠中、出産も合併症を発症して安全に出産ができない人もいます。

日本ではあまり考えられないことですが、アフリカなど世界にはそのような国が存在します。ロータリーの活動として、予防ワクチンや抗生物質の提供、水と衛生の改善、出産に関する情報資料の提供、公認の医療研修プログラムの支援など、それらの問題の解決に向け活動をしています。

会長をさせていただいて、ロータリーからのメール・ホームページなどを見る機会が多くなりました、今さらと思うかもしれませんが、勉強させられます。ロータリー活動の6つの重点分野、もう少し意識していこうと思えます。

会務報告

萱場誠一 幹事

①帯広南RC、創立記念夜間例会開催のご案内

日時 4月23日(月)午後6時30分
場所 北海道ホテル



②帯広西RC、夜間例会開催のご案内

日時 4月26日(木)午後6時30分
場所 北海道ホテル

③帯広北・帯広東・音更RC、合同夜間例会開催のご案内

日時 4月27日(金)午後6時30分
場所 ホテル日航ノースランド帯広

※尚、帯広東RCは、4月24日(火)の繰り下げ例会と致します。

④帯広南RC、4月30日(月)の例会は、祝日振替のため休会と致します。

帯広東RC、5月1日(火)の例会は、休会と致します。

帯広RC、5月2日(水)の例会は、休会と致します。

帯広西RC、5月3日(木)の例会は、祝日のため休会と致します。

帯広北RC、5月4日(金)の例会は、祝日のため休会と致します。

委員会報告

小谷典之 副会長

今週の土曜日と日曜日PETSがあります、いよいよ佐藤年度が始まりますけど、土曜日PETSのあと午後6時30分から、懇親会がありますので、ぜひ参加していただきます様お願いします。



あと22日日曜日ですが朝9時に、文化ホールで役員、理事、委員長の皆さんは、文化ホールで朝9時集合していただいて9時30分から、開始になりますので、皆さん参加よろしく、以上です。



会長 石原 英樹
幹事 萱場 誠一

副会長 佐々木嘉晃
副会長 小谷 典之

会場監督理事 立崎 貴之
プログラム委員理事 北川 勝啓

発行：広報委員会
委員長 柳沢 一元 (副)河西 智子



例会日/木曜日 12時30分~13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

ニコニコ献金 親睦活動委員会 藤本 剛 委員

佐藤 聡 次年度会長

いよいよ次年度が動き出します4月21～22のPETS地区協議会出席義務者の方は必ずご出席ほどよろしくお願い申し上げます。



古田 敦則 長期計画特別委員長

本日担当例会ですよろしく申し上げます。

小谷 典之 副会長

何とか当選することができましたご支援ありがとうございました。

佐々木和彦 委員長

オーバー60アイスホッケー、全国大会ベスト4に入りました、3位戦では苫小牧に惜しくも2-3で負けました少し残念、今週の土曜日21日に老人ホーム愛仁園で斎藤先生、佐々木先生のご協力のもと、入れ歯の名前入れに行ってきます。

ニコニコ
献金

4月19日

8,000円

プログラム

長期計画特別委員会 古田敦則 委員長



「帯広畜産大学の概要について」

国立大学校法人帯広畜産大学 理事・副学長 柳川 久様

本日は帯広西ロータリークラブ例会にお招きいただきまして、どうもありがとうございます。また、いつも留学生を中心に帯広畜産大学がお世話となっております事に改めて御礼申し上げます。

今日は30分という時間を使わせていただき、帯広畜産大学の概要を話させていただきたいと思います。

私も実は大学には34年間おります。生まれは山口県で北海道の大学に憧れまして帯広畜産大学に入学しました。4年間帯広で勉強したけれども、もうちょっと勉強を続けたいなと思って、大学院は北九州の大学に行きまして6年間九州の大学院で勉強していたら、帯広に戻ってこないかとお呼びをかけていただきまして二つ返事で戻ってきて30年間畜産大学に勤めております。ですから学生時代が4年、教員として30年、大学に34年間もいると、大学の事も、ひと通り見てきたかなと思っていたら、今理事、副学長3年やっていますけど全然そんな事なく、大学も、いろいろ裏もあればいろいろあって奥が深いなと思っているのが今のところ。その学生の立場で見る大学、教員の立場で見る大学、そしてまた経営者の立場で見る大学では全然違います。このあいだも北大の理事の方と話をしていたら、北大は全部で教職員、学生、それから教員合わせて約2万人いるそうです。その2万人で北大の予算は帯広市の予算を上回っている。大学ってそういうところで、それくらいの予算を使って運営して、いるらしい。帯広市の10数万人で使う予算と、北大の2

万人弱で使う予算がほぼ同じくらいか、それ以上、という事らしいです。私が理事になった時に最初の会議で2億、3億の話が出てきた時に、私、どうしてこんなところにいるのだと思いました。今まで予算の話では、10万とかの単位の事ばかり話していたから、とてもこんな話しについていけるかと思いましたけれども、今年で3年になります。

中にいる人でもそのくらいわからないところですから、外から見ればもっとわからないところも大学にあると思いますが、大学の全部をオープンにできない部分もごさいますけれども、答えられるところは、答えていきたいと思っておりますので、お話を聞いていただけたらと思います。

畜産大学は昭和16年、まだまだ80年経ってないので、70数年です。もともとは、高等獣医学校、北大の獣医もそうでしたけど畜大の獣医も、軍馬の獣医さんからきていますので、馬を中心とした獣医学校として指導したけれども、それから、戦争が終わってからどちらかと言うと、牛を中心の大学であります。それで平成24年に北海道大学獣医学部と共同獣医学課程を組みました。

今、畜大の獣医の学生は北大の学生でもある。卒業証書に帯広畜産大学と北海道大学と二つの名前が出てくる。二つの大学でお互いやりとりしますけれども、あの畜大と北大と組んで、良いところは、北大は、都会の大学ですので犬猫中心の獣医学、畜大はやはりこういう場所にありますので牛、馬、豚等の産業動物中心

です。この獣医大学で参考までに申し上げますと、北の2大学、それから南の大学、山口大学と鹿児島大学の獣医の4大学で連携してヨーロッパの獣医認証を取得しようと今、頑張っています。このヨーロッパの獣医認証を取ると、日本の大学ではまだ取っていないが、ヨーロッパでも獣医師として開業できるようになります。普通では、畜大出てヨーロッパで獣医さんになる人はほとんどいないでしょうけれど、国際的に通用する獣医なのです。現代、いろいろな問題というのは、国際問題で広まっているので、今ヨーロッパでありますとか、アフリカアジア圏にいた時に、日本だけのライセンスでは通用しない場合があります。でもそういう国際認証取ればいろんな所において、通用する様になります。ただし、国際認証には五つ位あって、アメリカの認証、イギリスの認証、そこらへんはすぐく敷居が高いみたいで、まずはヨーロッパ認証を取るということにしています。四つの大学で協力してやらなきゃいけないですけども、畜大と北大は仲良く取り組んでいますけど、鹿児島と山口は仲が良くないです。でも、四つの大学で協力して、獣医の認証取らなければならないので、頑張っていかなければならないと思います。

畜大の大きさですけど、畜大の学生も知らないくらい、畜大ってどこまで畜大と、よく聞かれますが、畜大の面積は、189haあり、一部は建物がありますが、ほとんどが、畑と牧場であります。多くの学生は、私もそうですけども、皆、これに憧れてくる。オープンキャンパスを毎年8月に行いますが、千人程度の学生が来てくれます。来た子は、ほとんどが畜大受けたいと言ってくれます。それはやはりこういうところを歩いて、牛とか馬がのびのびとしたところでの暮らしをみたら、気に入ってくれます。正門入ったとたん「リス」が走り回っている、それを見ても絶対この大学と言う人が多いです。

役員は学長が1人で理事が3人、そのうち2人が内部理事で1人が外部理事で外部の方をお願いしています。監事が2人、主に、学長一人と理事2人の3人体制でやっていますので、理事が2人、私ともう1人研究国際担当の井上さんがいますけれど、この2人が学長の手足として走りまわっているところです、学長も走り廻っています。

教職員は全部で206人、教員が121人、事務職員が85人程度の大学ですね。国立大学の下から数えて二番目か三番目くらいで小さな大学です。北海道内では旭川医大が小さいですけどその次に小さいのが畜大です。

学部学生数、学生は一大一年生が250人、獣医が40人、畜産が210人ですので $250 \times 4 + \alpha$ で1171人くらい、最近の畜大は男子学生は40%、女子学生は60%です。私が畜大の学生だったとき52人クラスで3人しか女子いませんでしたけど今圧倒的に女性が多いです。全国の理系の大学で、一番女子比率が高いのは農学部です。農学部は女性は多いけど、ほとんどの大学で女性率が高い

ところでも40%ですので、いつもその農学部長会議に行くと、柳川さんのところは異常だよとよく言われます。畜大は異常なケースが三件ぐらいあって、そのうちのひとつがこの女子率の高さです、女子が60%、大学院生はさすがに男性が多かったですけど、去年の1年から逆転して、多分男性より女性が多くなります。今のところ男女比率は、この様です。

もう一つおかしいと言われるのが、北海道の学生率が非常に低い。畜産大学、帯広ありますけれども北海道の学生が多い時で40%、少ない年で30%であり、30%から40%ぐらいの間で推移しています。残りの60%は本州から来ます。今の執行部も、学長と私ともう1人の理事は3人とも西日本の出身です。京都、徳島、山口、局長が佐賀でしたので、4本柱が皆、西の人間です。

次は、就職先ですが、道外から6~7割学生が来ますけれども、そのうち北海道の就職率は、去年は非常に少なくて50%、その前の年は60%でした。これが異常ですよって言われるのも一つですね。畜産大学は本州から多くの学生集めて北海道に多くの学生を残すというのは、文科省も認めてくださっています。ただし今年に関しては例年60%の学生が北海道に就職します。これは、北海道に憧れてきて十勝が好きで来た学生だからやっぱり十勝に残りたい子が多い。そこで、今年こういう50%以下の数値になった理由の一つは、大都市の比較的大きな企業に学生が多く入れたのです。これは大学にとって、悪いことではないけれども、もう一つの畜産大学の「ウリ」である北海道に多くの学生を残すという部分ではマイナスの数字が出てしまったってことです。これは良し悪し、いろいろあるので学生さんの志向からいえば、やっぱり大阪東京の就職が多かったですけど、それも仕方がないことかなというふうには考えております。

留学生については、80名ですが、現在の留学生の数28ヶ国から72名の留学生が来ています。最近の傾向として、今年度で終わりますけどあのABEイニシアチブという制度があってアフリカの学生を国の費用で呼べます。そういう制度がありますので、現在アフリカの学生が非常に多いです。もう一つの、力を入れている分として、このパラグアイを中心に中南米の学生ら、そことの支援協力を強化して行こうということも勧めています。それからアジアに対しても、獣医の国際認証を取得できた暁にはアジアの獣医系の大学を束ねてそのアジアでの獣医学教育のレベルアップを先導として行こうと、今、計画があって、北大とかとアジア系の大学、獣医系の大学、例えば、タイ、チェンマイとか、カセテイト等いろんな大学ありますけど、そういう大学と連携を結んでお互いの獣医学関係の学生、教員行き来をしようというふうに進めております。

次に、ロータリーにも協力いただいていますけど、国際交流懇親会を毎年やっています、いろんな国の学生さ

ん、それから留学生、ロータリー、JICAの方とか、年に1回畜大に集まっているいろいろ楽しくパーティーをやるっているという事もあります。

次に、畜産大学の基本目標です。畜産大学は、畜産の単科大学です、我が国唯一の国立の農学系大学で、獣医学分野と畜産学部や融合の教育研究体制下で、国際通用力を持つ教育課程を持っている。食の安全確保のための、教育システムを利用している。これらをもって地域に貢献する大学であり、グローバル社会の要請に即した農学系人材を育成する大学、畜大は、小さな大学ですけど、今、全国レベルの学生が集まってくる、またその仕事としても、世界トップレベルの仕事を経験進めております。それらもあって、小さいけれどもキラリと光る大学を目指して今、頑張っているところです。個性が出しやすい大学なのでよそに比べて良いと言われてはいますが確かにその通りで、内には内のいろいろなやり方があり、それでいろいろな事で注目をいただいているというところはあります。

日本の食糧基地である北海道十勝において生命、食料環境をテーマに農学、畜産科学、獣医学の教育研究、実学をベースにしている大学ですので、食を支えて暮らしを守るための人材の育成をしている。更に、基礎研究は非常に大切で、基礎研究を元に実学がなっているわけですけど、こういう食べるものであるとか実学であるとか、外に出てフィードバックするっていうのは、説明しやすいですね。いろんな人に分かってもらえやすいからその分有利だと思います。例えば哲学等の話を皆さんにわかってもらうのは難しいけど、農学とか獣医学、畜産学とか食べ物の話はすぐわかりやすく、文科省に行っても非常に話をしやすいのです、そういう面では得な様な気がします。

あの四つの大学で連携してきました北大、畜大それから山口大、鹿児島大でこの四つの獣医系大学で一緒になって、ヨーロッパの認証を取得して、まだこれを持っている大学はどれもありません。今、獣医系の大学、いくつかありますけれども、いくつかの大学で何となくそれぞれ目指すところが違ってきているような気がします。例えば北大、畜大、鹿児島大、山口大学とあといくつかの大学の流れはこういう国際的な認証を取得し、国際的に通用する大学を目指す、それから同じ大学でも例えば、東京大学みたいな大学はどちらかというと実学というのも研究中心の基礎系の部分を伸ばして日本の中でステータスをきる、それから私立は、日本の地域で役に立つ公務員等を、重要に育てることを念頭において、という三つの流れぐらいになっていて、これも一つの流れですけども、その主に獣医の中でもそういう流れが今のところある感じです。

獣医学関係の先生方は、年に2回、農学部長会議があってその会議に出て獣医学関係の省の集まりがありま

すが、なかなか意見の一致が見ない、いろいろな考えがあり、プライドもありなので、そこで、それぞれ目指すものが違って来る。

うちはそのグローバルアグロMedicine研究センターという一つのセンターを置いて、センターを中心に、海外の獣医学系でありますと、アメリカのコーネル大学、それから農学系でありますとアメリカのウィスコンシン大学と連携をしている。コーネル大学とは主にその研究が中心な結びつきで、あと一部の獣医の学生をここに派遣して授業を受けさせます。ただし、かなり英語のレベルが高くないと受け入れてもらえないので、今まで行っている学生は皆帰国している。

それから、ウィスコンシン大学は、今年の8月から向こうの大学から学部学生が十何人に帯広に来て、スタジアムロードとって短期滞在型10日間ぐらい、そういうプログラムがあるけど、それで、ウィスコンシン学部の4年生ですかね、10何人に行きます。それにうちの大学もやっぱり同じ数のチューターをつけてこちらと向こうの大学の学生との交流をする、学生間、教員間の教育を含めた交流を進めて行こうと考えています。もちろん研究面でも共同研究とか、畜産大学は、その国際研究の論文比率が40%、つまり年間出る論文のうち40%の論文は、国際協力成り立つ研究で、普通の大学よりはるかに高い比率を持っているということで、これも評価されています。

それから教育のためには教育の場を整備するということで、例えば農場の乳製品工場、搾乳施設から検査センター等、いろんな認証取得しています。その認証取得して国際安全性基準を持った教育環境と実務科教員を入れて実学を中心に勉強ができる場とスタッフをそろえて、それに対応しようという事で、これには留学生さん、それから学部の学生で大学院、あと社会人のリカレント教育も含めて対応していくという事を、進めております。

去年、実は大学院の改組を行いまして、ちょうど加計学園側の認証でござたしている時に、うちも一緒に出しました。それが幸いしたのか、すんなり通ってしましまして、こんな小さな大学院ですけど独自の博士課程を持つことが認められました、今年から、この大学院の博士課程を持って、修士博士一本化教育が出来る様になりました、獣医学分野や衛生学分野、農学分野で、博士課程までの教育できる大学をそろえて行っています。

スタッフが全部で200人ですね。その程度の大学この様なことを取り組んでいるわけですから、みんなが頑張っていて走りまくって働いています。そのためやっぱり地域の皆様の支援も必要になってきますのでよろしく願います。

大体与えていただきました時間がきましたのでこのくらいで終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。